

# 海で安全に楽しむために

平成28年度版



第九管区海上保安本部  
海の安全推進室

**JAPAN COAST GUARD**

## はじめに

我々、第九管区海上保安本部は、新潟、富山、石川県の海を管轄し、機会を捉え海での事故防止を訴えてきたところですが、海での事故は、毎年発生しています。

今回、第九管区海上保安本部は、海で安全に楽しむために海浜や沿岸に限らず広く内陸部の皆様へも事故防止活動を行い、皆様が海で安全・安心に楽しめるよう取り組んでいきたいと思えます。

このテキストは、そうした目的のひとつとして子供から大人まで理解しやすいように編集したものです。

命を守るために、ぜひともご活用ください。



# 目次

## 1 第九管区海上保安本部管内のマリンレジャー事故発生状況

過去10年の管内マリンレジャー事故発生状況

管内マリンレジャー事故情報マップ

管内マリンレジャー事故事例

## 2 海の安全情報

波の高さは一定ではありません

海岸は危険がいっぱい

離岸流にご注意ください

海にはさまざまな生物がいます

## 3 海での注意事項

情報を確認し準備を行う

強風、波の高いときは遊泳しない出港しない

遊泳禁止区域では泳がない

子供だけの遊泳はさせない

保護者は子供から目を離さない

飲酒したら泳がない

ミニボート運航は、ルールを守って安全航行

## 4 おぼれた原因

## 5 もしも海でおぼれている人をみつけたら

## 6 もしも海でおぼれたら

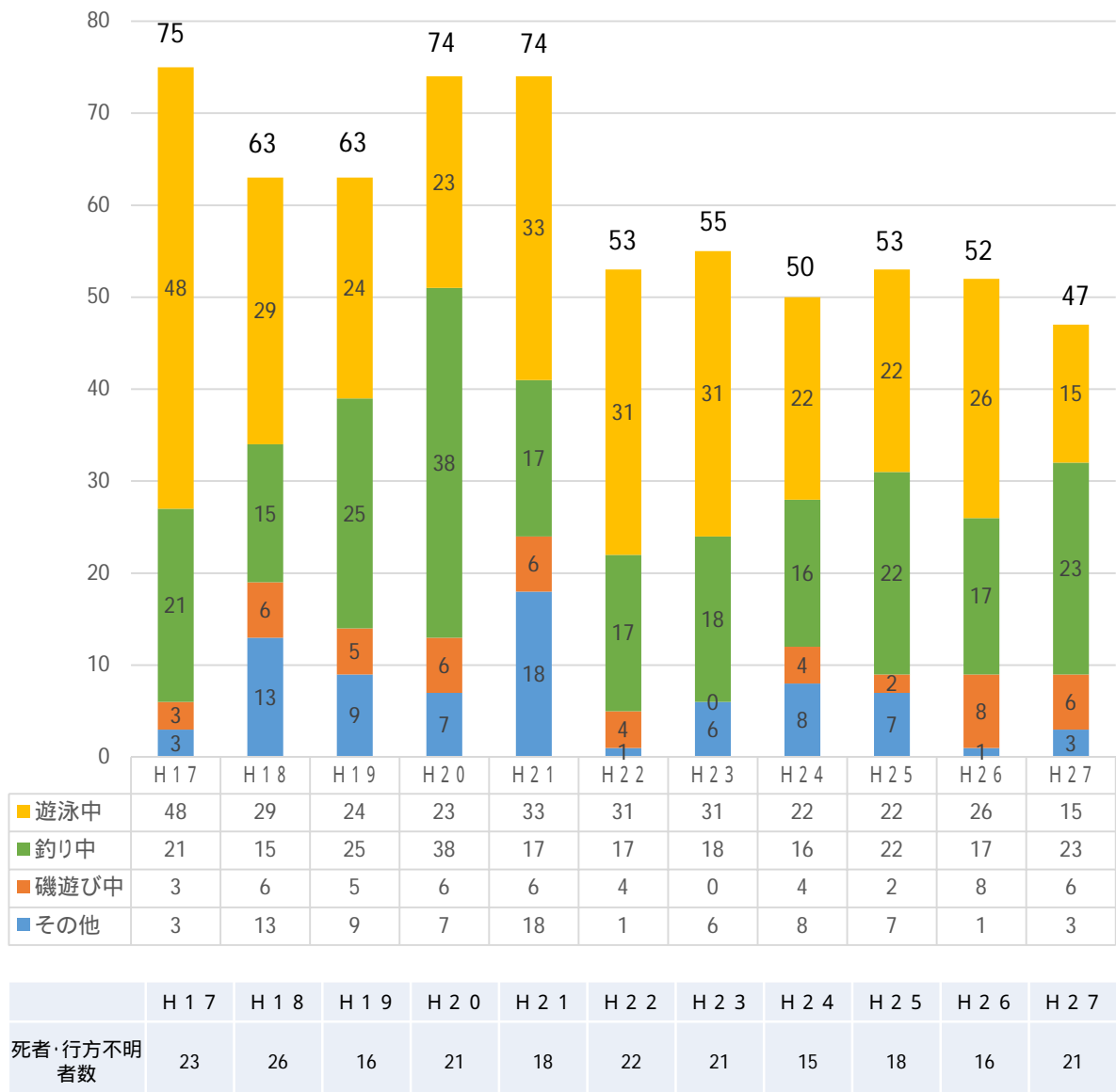
## 7 大切な命、自分で守る



# 1 管内のマリンレジャー事故状況

## 過去10年の管内マリンレジャー事故発生状況

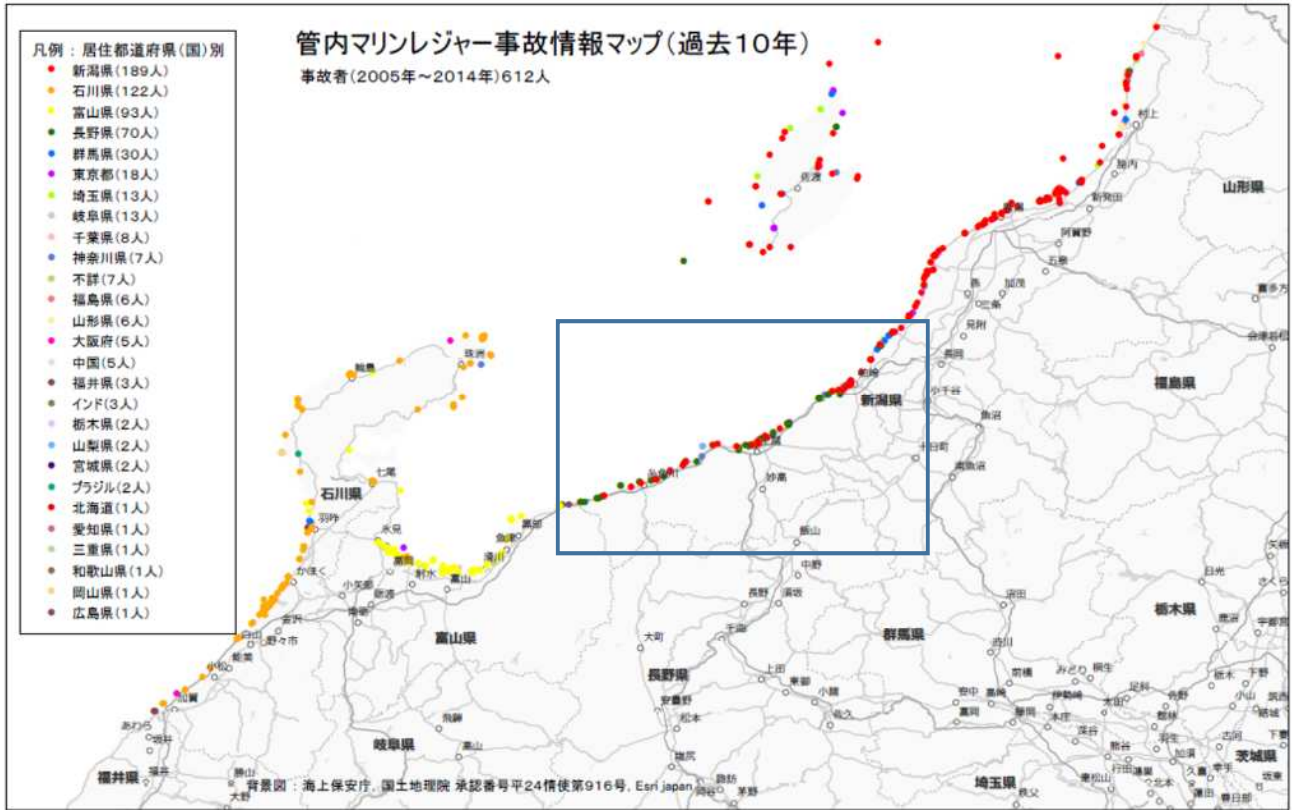
### マリンレジャーに伴う事故者数



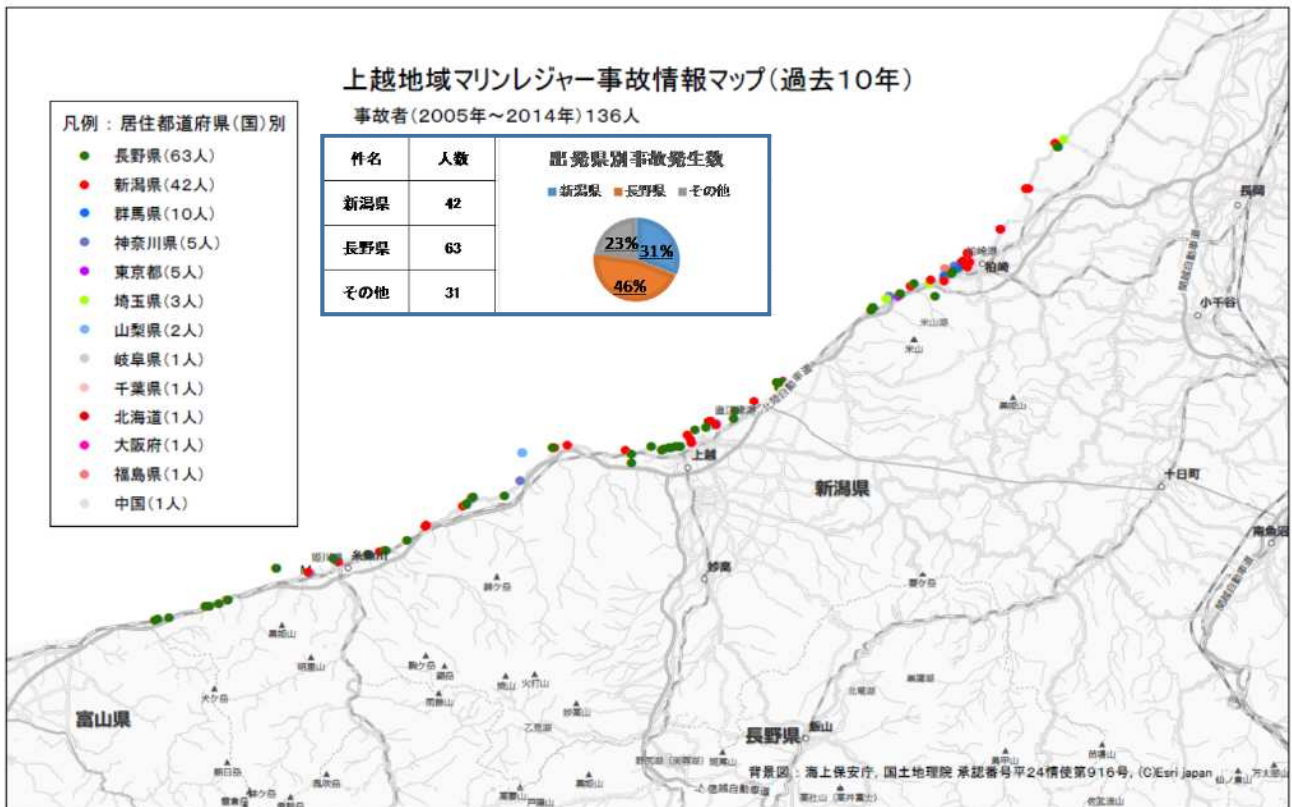
「マリンレジャーに伴う事故」とは、釣り・遊泳・サーフィン等の海における余暇活動に伴って発生する事故です。

# 管内マリンレジャー事故情報マップ

平成28年6月作製



平成28年5月作製



## 管内マリレジャー事故事例（1/2）

### 事故事例1【子供から目を離さないで】

5月、長野県在住の家族等8名は、新潟県上越市の海岸で食事をするため上越市柿崎上下浜を訪れた。子供3名が波打ち際で遊んでいたところ、高い波を受け沖に流され、その状況を見ていた父親が自ら救助に向かったものの同人も沖合に流された。さらに、付近で釣りをしていた男性1名もこの状況に気づき救助に向かったが同様に流された。

（事故者5名（全員死亡））

### 事故事例2【離岸流】【悪天候下での遊泳】

8月、東京都在住の男性3名は新潟市の海水浴場で遊泳していたところ、当時波打ち際付近で波高1メートルを超える波が発生しており、引き波によって沖合に流され、陸岸に戻れなくなった。3名のうち1名は自力で陸上に、もう1名はサーファーに確保されたが、残り1名が行方不明となり、捜索の結果、2日後海岸上の波消しブロックの間で発見された。（事故者2名（1名死亡、1名救助））



### 事故事例3【飲酒後の遊泳】

8月、長野県在住の男性は、山梨県在住の家族等計5名で新潟県上越市の海水浴場に到着し、海の家で昼食を取る等休憩のうえ、1人で海に入った。その後海水浴客が、波打ち際付近海上でうつ伏せで浮いている男性を発見した。男性は、休憩中にチューハイ(350ML)3本を飲んでおり、かなり酒に酔っていた状態であった。（事故者1名（死亡））

## 管内マリネジャー事故事例（2/2）

### 事故事例4【指定海水浴場以外での遊泳】

8月、群馬県在住の家族等6名は、キャンプ目的で新潟県村上市の海浜を訪れ、子供達がビーチボールで遊んでいたところ、ボールが沖合に流されたため、遭難者がボールを取りに海に入り、沖に向かって泳ぎ始めたが、30メートル程沖合まで泳いだところであきらめ、その後浜に戻る途中で溺れた。（事故者1名（死亡））

### 事故事例5「無謀な防波堤釣り」

5月、新潟県在住の男性4名は、ミニボートで新潟県直江津港防波堤へ渡って釣りをしており、風が強くなってきたことから陸へ帰ろうとしたが、すでに波が高くなっていたため陸へ帰ることができなくなった。

波が高く巡視艇でも救助が困難であったことから、海上保安庁所属航空機により吊上げ救助された。

（事故者4名（全員救助））



### 事故事例6「天気予報をしっかり確認して」

5月、ミニボートに乗組み、釣り場に向け出港したものの、その後波が高いので引き返そうとしたところ、船体に波が打ち込みバランスを失い転覆し、乗船者2名が海中転落。同人は海中より118番通報。当庁巡視艇にて転覆した同ボート上に避難していた同2名を救助し、直江津港へ搬送した（全員救助）。

## 2 海の安全情報

### 波の高さは一定ではありません

波の高さは一定ではありません。波の高さが2mに見えても、100波に1回は約1.5倍(3m)、1,000波に1回は約2倍(4m)の波が発生します。

高波発生確率は低いと思われがちですが、この高い波も事故の一因になっています。お出掛けの際は、空模様だけでなく、気象・海象も判断材料にしましょう。



### 海岸は危険がいっぱい

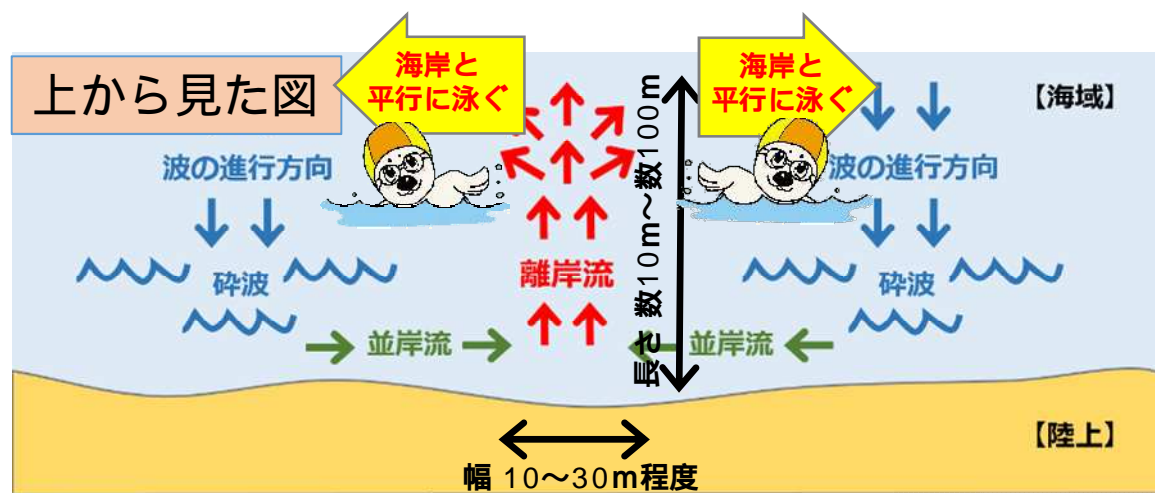
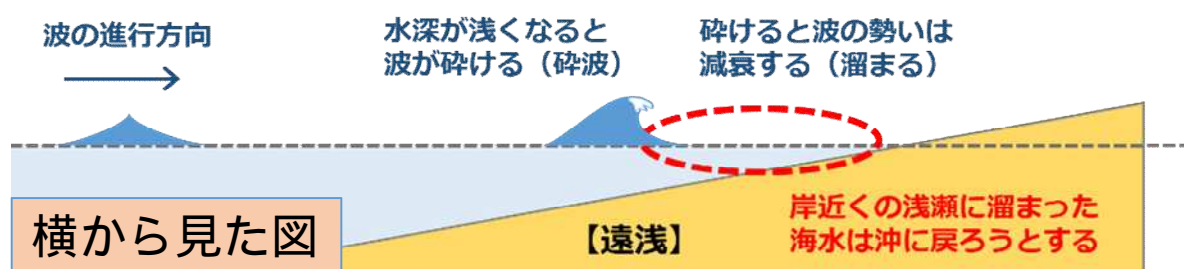
- ・海中の見えない深みに注意して下さい。
- ・波打ち際のすぐそばでも急に深くなっているかもしれません。
- ・風に流されないように注意して下さい。
- ・浮き輪やゴムボートは予想以上に風に吹かれ流されます。
- ・道流堤や消波ブロックなどの周辺では注意して下さい。





## 離岸流にご注意ください

**離岸流とは・・・** 波やうねりは沖から海岸へ打ち寄せますが、打ち寄せられた海水は、必ず流れやすい場所から沖へ戻ろうとします。この時に沖へ向かって発生する強い流れを「離岸流」と呼びます。離岸流が発生していると、気が付かないうちに沖まで流されてしまい大変危険です。



### 離岸流からの脱出方法

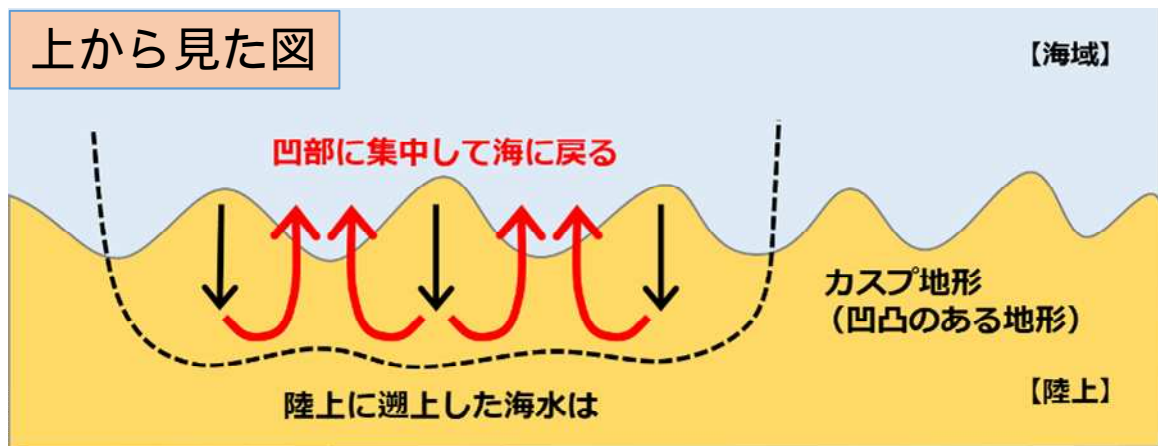
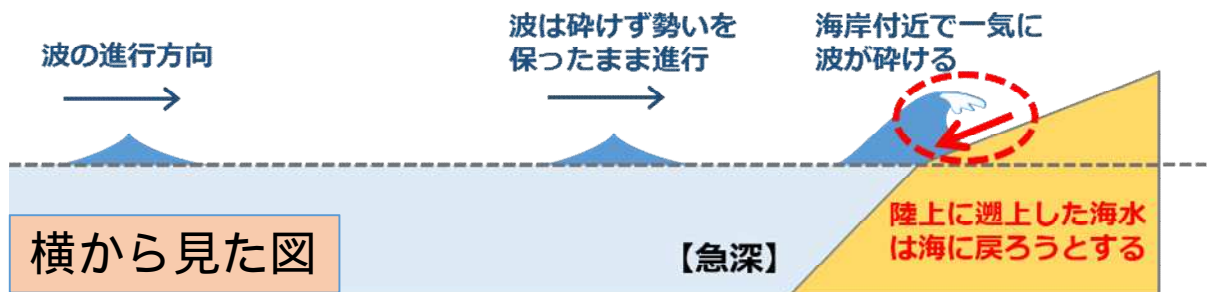
1. まずは、落ち着く。(あわてない)
2. 陸に向かって泳がない。
3. 海岸と平行に泳いで脱出する。
4. 脱出できたら、海岸に向かって泳ぐ。



う〜みん

## 戻り流れにご注意ください

**戻り流れとは・・・** 急深の海岸において、打ち寄せる波が陸上に遡上し、その海水が海に戻ろうとする時に発生する強い流れです。特に、カスプと呼ばれる凹凸地形では、陸上に遡上した海水が、高くなっている凸部から、低くなっている凹部に集中し、一気に海へ流れ込むことから、強烈な流れになると言われています。



### 戻り流れに巻き込まれないために

1. 波が高い時は海に近づかない。
2. 釣りや磯遊びの際には、救命胴衣を着用する



う～みん

# 海にはさまざまな生物がいます

## 危険な海洋生物

### 1 海の危険な生物の分類

主な危険な海洋生物は次の6つです。

【刺胞動物（腔腸動物）】クラゲ、イソギンチャク、珊瑚類

【軟体動物】アンボイナ等イモガイ類、ヒョウモンダコ

【魚類】サメ、オニオコゼ、ゴンズイ、ウツボ類、ミノカサゴ類

【棘皮動物】オニヒトデ、ガンガゼ、ラッパウニ

【環形動物】ウミケムシ

【爬虫類】ウミヘビ類

### 2 代表的な生物

#### アカクラゲ

##### <分布と特徴>

沖縄から北海道まで全域に見られ、春から夏にかけて沿岸部に漂着する。約10cmくらいの傘に16本の褐色の放射模様があり、普通40本の触手を持ち、そのうち4本は特に長い。

##### <症状>

すべての触手に刺胞があり毒性は強い。刺されると激しい痛みと炎症を起こす。

### 【参考】基本的な対処方法

#### 冷やす

クラゲなどの刺胞動物に刺された場合は、刺胞（触手）を取り除いてから痛みがなくなるまで、受傷部位を氷のうなどで冷やし続ける。

#### 毒を取り除く

ヒョウモンダコのような毒を持つ危険生物に咬まれた場合は、一刻も早く毒を取り除く必要があります。



ヒョウモンダコ



アカクラゲ

### 3 海での注意事項

#### 情報を確認し準備を行う

天気予報や波浪についての注意報などを確認しましたか。

海浜事故発生の可能性が高い場所かもしれません。

救命胴衣や浮き輪など準備していますか。

強風、波浪の高いときは遊泳しない出港しない

白波がたっていませんか。

沖の船が大きく揺れていませんか。

波消しブロックでしぶきが上がっていませんか。

#### 遊泳禁止区域では泳がない

遊泳禁止の看板がたっていませんか。

監視員が配置されていますか。

子供だけの遊泳はさせない

子供は冒険が大好き！

小さな波でも子供は足をすくわれます。



#### 保護者は子供から目を離さない

子供は危険が近付いていることが分かりません。

海の様子も注意して。突然、大波があることもあります。

良く体調を考えて

お酒を飲んだら海に入らないこと。

疲労や睡眠不足で泳がないこと。

準備運動をシッカリ行うこと。



#### ミニボートは、ルールを守って安全航行

出発前にシッカリ点検しましょう。

救命胴衣を着用しましょう。

風が強いときは出港を止めましょう。



## 4 おぼれた原因

大人の目のとどかないところで泳いでしまった  
沖に流されて戻れなくなった  
急な深みにはまった  
突然、高い波がきた  
天気が悪いのにムリして泳いだ  
準備運動をしなかった

## 5 もしも海でおぼれている人を見つけたら

周囲の人に知らせる、救助を要請する

海上保安庁 118番

警察署 110番

消防署 119番

浮くもの（救命用具）を見つけて投げる

ペットボトルやクーラーボックスを投げ入れる。

救助する場合、まずは自分の安全確保

ひとりで救助に行かない。

安全な場所から助けることを考えて。

陸上からの救助

棒や板切れ、ロープを使うこと。

## 6 もしも海でおぼれたら

落ち着いて

あわてず落ち着いて、浮くものやつかめるものを探してみよう。

浮いて待つ

ムリに泳がず「浮いて」助けを待とう。

脱がないで

衣服や靴は浮くから脱がないで。

## 7 大切な命、自分で守る

自己救命策の確保「3つの基本」  
「救命胴衣の着用」 水に浮く。  
「連絡手段の確保」 防水パックと携帯電話を持つ。  
「海でもし事故があったら118番」救助を要請する。

さらに、  
携帯電話のGPSはON！

そして、

海は危険がいっぱい。

ぼくは、わたしは、  
ひとりで出かけたり波が高いときに海で遊んだりしない。



お父さん、お母さん  
毎年全国で、海浜事故により、多くの子供たちが、海で溺れて亡くなっています。子供たちから絶対に目を離さないでください。

「海で安全に楽しむために」を良く読んで、楽しい思い出を自宅まで持って帰ってください。

ゴミも持って帰って海をきれいに  
「未来に残そう青い海」

編集 第九管区海上保安本部  
海的安全推進室

025-285-0118(代表)

**JAPAN COAST GUARD**